

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	富士宮駅・イオン・星山台・蒲原病院 線			事業者名	山交タウンコーチ株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	富士宮駅	イオン 星山台	蒲原病院		
系統キロ程 (km)	18.0		輸送量 (人/日)	22.6	
平均乗車密度 (人/便)	2.2		運行回数 (回/日)	10.3	
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	富士川第二中学校・富士川第二小学校・富士川第一中学校・富士川第一小学校			
	病院	蒲原病院・富士宮市立病院			
	商業施設	イオンモール富士宮			
	その他	富士宮駅・富士川駅・富士宮市役所			
収支率 (%) (収益/費用)	45.6		乗車人員 (人)	76,611	
他系統との接続	8系統	接続系統	宮バス中央循環内回・宮バス中央循環外回・宮バス東南循環南回 ・宮バスシャトル便・芝川バス稗久保線・芝川バス香葉台線 ・宮タク南部エリア・富士市Cバス		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	19.7				
増収策	<p>○自社（グループ）のホームページ「やまなしバスコンシェルジュ」を活用し、時刻表・路線案内等の充実（携帯電話向け端末を含む）また、バス停・ベンチ等の補修・書式の変更を適宜行い、より使いやすいバスを目指す</p> <p>○バス利用者及びバス路線沿線施設等に地区毎の通過時刻表を配布し当該バス路線認知を目指す</p> <p>○学休期割引運賃、高齢者割引運賃導入</p> <p>○「富士市乗継割引・一日乗車券」へ参画し、フィーダー系統との連携強化による増収、利用促進策を実施</p>				
費用削減策	<p>○運行仕業の見直し（人件費・残業の抑制）を進め、更なる経費削減を目指す</p> <p>○省燃費運転（エコドライブ）講習・デジタルタコグラフを活用し個人運転データに沿った運転講習を行い乗務員の意識向上、燃料費抑制を目指す。燃費の向上に伴うCO2削減を目指す</p> <p>○乗降調査等により、効率の良いダイヤを研究</p>				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>他系統との接続(本) 50</p> <p>広域利用状況(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	秋葉線			事業者名	秋葉バスサービス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	袋井駅前	袋井市民病院・三倉・春野高校入口	気多		
系統キロ程 (km)	43.5	輸送量 (人/日)	18.4		
平均乗車密度 (人/便)	2.8	運行回数 (回/日)	6.6		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	春野中学校、気田小学校、春野高校、犬居小学校、三倉小学校、泉陽中学校、天方小学校、森中学校、森小学校、遠江総合高校、飯田小学校、周南中学校、袋井商業高校、袋井北小学校			
	病院	袋井市民病院			
	商業施設	イオン袋井店			
	その他	天竜区春野自治センター、森町役場、袋井市役所、天竜浜名湖鉄道戸綿駅、JR袋井駅			
収支率 (%) (収益/費用)	43.3	乗車人員 (人)	117,098		
他系統との接続	13系統	接続系統	秋葉中遠線9系統、可睡の杜線3系統、今井線1系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	30.7				
増収策	①運輸安全マネジメント計画（重点施策やハード面、ソフト面の充実、改善、教育計画を含む詳細計画で毎年3月に策定）を策定し、計画に基づき年間を通じて各種の取り組みを実施し、安全・安心な輸送サービスの提供と接客・接遇の向上に努めた。計画に基づく実施事項の適合性と有効性は年2回の運輸安全マネジメント監査により判定し、毎年のスパイラルアップに繋げている。重大事故件数はゼロ件。 ②各種運賃割引施策（秋葉線の頭打ち運賃の実施、通学ウィークデー定期、環境定期）を継続実施した。 ③秋葉線（元開橋～気多間）13時以降のフリー降車サービスを継続実施した。 ④沿線小学校および幼稚園でバスの乗り方教室を5回開催した。 ⑤森町花火大会に協賛、沿線幼稚園・保育園の行事に合わせ増発便を運行した。				
費用削減策	①関係市町と協議し、合理化ダイヤ改正、運行ダイヤ改正ともに実施なし。 ②運転士の休日振替により休日出勤を抑制、昇給は定昇・ベア込みで運転士平均1,054円/月、賞与は年間で3.0ヶ月とし、運送費（人件費）の節減に努めた。 ③毎月発表される日貨協平均単価より毎月50銭/ℓ（スタンド単価より20～30円安い）安い単価で軽油の仕入れをするとともに、エコドライブ等により全社の平均燃費は3.88km/ℓとした。 ④運転士を除いた管理、監督、事務、営業要員は、社長を含み6名を維持し経費（人件費）の節減に努めた。乗合タイプ車両を使用した貸切（近距離送迎）は、40稼働を受注し、経費の分散に努めた。				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>他系統との接続(本) 50</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	可睡の杜線			事業者名	秋葉バスサービス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	袋井駅前	中央町、袋井市民病院、可睡の杜	遠州森町		
系統キロ程 (km)	13.3	輸送量 (人/日)	19.1		
平均乗車密度 (人/便)	3.3	運行回数 (回/日)	5.8		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	森小学校、遠江総合高校、飯田小学校、周南中学校、袋井商業高校、袋井北小学校			
	病院	袋井市民病院			
	商業施設	イオン袋井店			
	その他	森町役場、袋井市役所、天竜浜名湖鉄道戸綿駅、JR袋井駅			
収支率 (%) (収益/費用)	74.7	乗車人員 (人)	49,790		
他系統との接続	13系統	接続系統	秋葉線1系統、秋葉中沿線9系統、可睡の杜線2系統、今井線1系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	21.8				
増収策	<p>①運輸安全マネジメント計画（重点施策やハード面、ソフト面の充実、改善、教育計画を含む詳細計画で毎年3月に策定）を策定し、計画に基づき年間を通じて各種の取り組みを実施し、安全・安心な輸送サービスの提供と接客・接遇の向上に努めた。計画に基づく実施事項の適合性と有効性は年2回の運輸安全マネジメント監査により判定し、毎年のスパイラルアップに繋げている。重大事故件数はゼロ件。</p>				
費用削減策	<p>①お客様の要望等を受け、関係市町と協議し、運行ダイヤ改正を平成23年10月と平成24年4月に実施した。また、関係市町と協議し、合理化ダイヤ改正の実施はなし。 ②運転士の休日振替により休日出勤を抑制、昇給は定昇・ヘア込みで運転士平均1,054円/月、賞与は年間で3.0ヶ月とし、運送費（人件費）の節減に努めた。</p>				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150 平均乗車密度(人/便) 10 運行回数(回/日) 30 収支率(%) 100 乗車人員(人) 300,000 他系統との接続(本) 50 広域利用状況(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	秋葉中遠線			事業者名	秋葉バスサービス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	袋井駅前	袋井市民病院	遠州森町		
系統キロ程 (km)	13.0	輸送量 (人/日)	44.5		
平均乗車密度 (人/便)	3.4	運行回数 (回/日)	13.1		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	森小学校、遠江総合高校、飯田小学校、周南中学校、袋井商業高校、袋井北小学校			
	病院	袋井市民病院			
	商業施設	イオン袋井店			
	その他	森町役場、袋井市役所、天竜浜名湖鉄道戸綿駅、JR袋井駅			
収支率 (%) (収益/費用)	77.7	乗車人員 (人)	115,580		
他系統との接続	13系統	接続系統	秋葉線1系統、秋葉中遠線8系統、可睡の杜線3系統、今井線1系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	16.8				
増収策	<p>①運輸安全マネジメント計画（重点施策やハード面、ソフト面の充実、改善、教育計画を含む詳細計画で毎年3月に策定）を策定し、計画に基づき年間を通じて各種の取り組みを実施し、安全・安心な輸送サービスの提供と接客・接遇の向上に努めた。計画に基づく実施事項の適合性と有効性は年2回の運輸安全マネジメント監査により判定し、毎年のスパイラルアップに繋げている。重大事故件数はゼロ件。</p>				
費用削減策	<p>①お客様の要望等を受け、関係市町と協議し、運行ダイヤ改正を平成23年10月と平成24年4月に実施した。また、関係市町と協議し、合理化ダイヤ改正の実施はなし。 ②運転士の休日振替により休日出勤を抑制、昇給は定昇・ベア込みで運転士平均1,054円/月、賞与は年間で3.0ヶ月とし、運送費（人件費）の節減に努めた。</p>				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150 広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10 他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30 乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	大久保線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	狸坂	山崎		
系統キロ程 (km)	17.7	輸送量 (人/日)	27.7		
平均乗車密度 (人/便)	4.4	運行回数 (回/日)	6.3		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松学院大学、浜松北高校、開誠館高校、浜松市立高校、浜松商業高校、附属中学校、冨塚中学校、神久呂中学校、附属小学校、冨塚小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅			
収支率 (%) (収益/費用)	55.2		乗車人員 (人)	91,560	
他系統との接続	10系統以上	接続系統	志都呂宇布見線、大塚ひとみヶ丘線、詔山寺線、伊佐見線、奥山線、渋川線、引佐線、気賀三ヶ日線、ほか浜松駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	5.3				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスバスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用者に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	大久保線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	狸坂	田端住宅		
系統キロ程 (km)	12.9	輸送量 (人/日)	25.0		
平均乗車密度 (人/便)	4.1	運行回数 (回/日)	6.1		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松学院大学、浜松北高校、開誠館高校、浜松市立高校、浜松商業高校、附属中学校、富塚中学校、神久呂中学校、附属小学校、富塚小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅			
収支率 (%) (収益/費用)	59.9		乗車人員 (人)	74,359	
他系統との接続	10系統以上	接続系統	志都呂宇布見線、大塚ひとみヶ丘線、詔山寺線、伊佐見線、奥山線、渋川線、引佐線、気賀三ヶ日線、ほか浜松駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	0.2				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスバスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用者に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>他系統との接続(本) 50</p> <p>広域利用状況(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	伊佐見線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	伊佐見橋	山崎		
系統キロ程 (km)	16.6	輸送量 (人/日)	50.8		
平均乗車密度 (人/便)	4.5	運行回数 (回/日)	11.3		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松北高校、開誠館高校、浜松市立高校、海の星高校、広沢小学校、伊佐見小学校			
	病院	浜松病院、医療センター、湖東病院			
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅			
収支率 (%) (収益/費用)	58.7		乗車人員 (人)	167,562	
他系統との接続	10系統以上	接続系統	大平台線、大塚ひとみヶ丘線、舘山寺線、奥山線、渋川線、引佐線、気賀三ヶ日線、ほか浜松駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	0.7				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスバスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用者に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150 平均乗車密度(人/便) 10 運行回数(回/日) 30 収支率(%) 100 乗車人員(人) 300,000 他系統との接続(本) 50 広域利用状況(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	浜名線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	舞阪協働センター	湖西市役所		
系統キロ程 (km)	22.5	輸送量 (人/日)	50.0		
平均乗車密度 (人/便)	5.0	運行回数 (回/日)	10.0		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	可美中学校、篠原小学校			
	病院	湖西病院			
	商業施設				
	その他	スズキ、湖西市役所、舞阪協働センター、JR各駅（浜松駅・高塚駅・舞阪駅・弁天島駅・新居町駅・鷺津駅）			
収支率 (%) (収益/費用)	56.1	乗車人員 (人)	171,288		
他系統との接続	10系統以上	接続系統	志都呂宇布見線、浅田米津線、舘山寺線、奥山線、渋川線、引佐線、気賀三ヶ日線、ほか浜松駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	13.3				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスバスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用者に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>他系統との接続(本) 50</p> <p>広域利用状況(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	笠井高台線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	笠井上町	山東		
系統キロ程 (km)	23.5	輸送量 (人/日)	20.0		
平均乗車密度 (人/便)	5.0	運行回数 (回/日)	4.0		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	西遠学園、天竜林業高校、二俣高校、清滝中学校、与進小学校			
	病院				
	商業施設	浜松プラザ			
	その他	天竜区役所、JR浜松駅、遠鉄西鹿島駅			
収支率 (%) (収益/費用)	59.5	乗車人員 (人)	71,730		
他系統との接続	10系統以上	接続系統	秋葉線、磐田天竜線、北遠本線、舘山寺線、奥山線、渋川線、引佐線、気賀三ヶ日線、ほか浜松駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	8.6				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスバスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用者に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150 平均乗車密度(人/便) 10 運行回数(回/日) 30 収支率(%) 100 乗車人員(人) 300,000 他系統との接続(本) 50 広域利用状況(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	浜北医大三方原聖隷線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	三方原聖隷	染地台 なゆた浜北	浜北区役所		
系統キロ程 (km)	18.9	輸送量 (人/日)	39.0		
平均乗車密度 (人/便)	5.0	運行回数 (回/日)	7.8		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	聖隷クリストファー大学・高校、西部特別支援学校、浜松工業高校、日体高校、医科大学			
	病院	聖隷三方原病院			
	商業施設				
	その他	浜北区役所、遠鉄浜北駅、遠鉄小松駅			
収支率 (%) (収益/費用)	58.0		乗車人員 (人)	99,377	
他系統との接続	10系統以上	接続系統	奥山線、引佐線、渋川線、都田線、萩岡都田線、内野台線ほか浜松駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	49.9				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスバスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用者に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	渋川線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	追分	渋川儀光		
系統キロ程 (km)	36.3	輸送量 (人/日)	49.2		
平均乗車密度 (人/便)	5.6	運行回数 (回/日)	8.8		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	静岡大学、浜松北高校、浜松市立高校、開誠館高校、北星中学			
	病院	聖隷浜松病院			
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅、天竜浜名湖鉄道金指駅			
収支率 (%) (収益/費用)	55.3		乗車人員 (人)	176,604	
他系統との接続	10系統以上	接続系統	奥山線、引佐線、浜北医大三方原聖隷線、大平台線、大塚ひとみヶ丘線、舘山寺線ほか浜松駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	32.8				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスバスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用者に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	渋川線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	追分	伊平		
系統キロ程 (km)	21.8	輸送量 (人/日)	18.7		
平均乗車密度 (人/便)	5.5	運行回数 (回/日)	3.4		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	静岡大学、浜松北高校、浜松市立高校、開誠館高校、北星中学			
	病院	聖隷浜松病院			
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅、天竜浜名湖鉄道金指駅			
収支率 (%) (収益/費用)	68.2		乗車人員 (人)	50,977	
他系統との接続	10系統以上	接続系統	奥山線、引佐線、浜北医大三方原聖隷線、大平台線、大塚ひとみヶ丘線、舘山寺線ほか浜松駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	35.9				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスバスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用者に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	城之崎線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	磐田駅	東新町	浅羽中学		
系統キロ程 (km)	11.0	輸送量 (人/日)	21.9		
平均乗車密度 (人/便)	3.6	運行回数 (回/日)	6.1		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浅羽中学校、浅羽北小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	袋井市浅羽支所、NTN磐田製作所、JR磐田駅			
収支率 (%) (収益/費用)	55.4		乗車人員 (人)	52,690	
他系統との接続	10系統以上	接続系統	掛塚さなる台線、鮫島線、中ノ町磐田線、磐田天竜線、磐田市立病院福田線、労災篠ヶ瀬線ほか		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	16.5				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスバスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用者に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>他系統との接続(本) 50</p> <p>広域利用状況(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	磐田市立病院福田線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	磐田市立病院	磐田駅	豊浜郵便局		
系統キロ程 (km)	19.6	輸送量 (人/日)	55.8		
平均乗車密度 (人/便)	4.2	運行回数 (回/日)	13.3		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	磐田南高校、磐田北小学校			
	病院	新都市病院、磐田市立病院			
	商業施設				
	その他	磐田市役所、磐田市役所福田支所、JR磐田駅			
収支率 (%) (収益/費用)	56.8		乗車人員 (人)	184,692	
他系統との接続	10系統以上	接続系統	掛塚さなる台線、鮫島線、中ノ町磐田線、磐田天竜線、城之崎線、労災篠ヶ瀬線ほか		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	31.6				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスバスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用者に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>他系統との接続(本) 50</p> <p>広域利用状況(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	中ノ町磐田線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	中ノ町	磐田営業所		
系統キロ程 (km)	17.4	輸送量 (人/日)	119.4		
平均乗車密度 (人/便)	5.8	運行回数 (回/日)	20.6		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	西遠学園、磐田西高校、磐田南高校、中ノ町小学校、磐田西小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	磐田市役所、JR各駅（浜松駅・磐田駅）			
収支率 (%) (収益/費用)	72.4		乗車人員 (人)	375,256	
他系統との接続	10系統以上	接続系統	掛塚さなる台線、鮫島線、磐田市立病院福田線、磐田天竜線、城之崎線、労災篠ヶ瀬線ほか浜松駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	17.4				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスパスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用客に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>他系統との接続(本) 50</p> <p>広域利用状況(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	北遠本線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	西鹿島駅	横山車庫	水窪町		
系統キロ程 (km)	51.9	輸送量 (人/日)	20.0		
平均乗車密度 (人/便)	4.0	運行回数 (回/日)	5.0		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	天竜林業高校、二俣高校、清滝中学校、光が丘中学校、横山小学校、龍山第一小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	浜松市天竜区役所、龍山協働センター、水窪協働センター、遠鉄西鹿島駅、JR各駅（相月駅、水窪駅）			
収支率 (%) (収益/費用)	31.7	乗車人員 (人)	58,888		
他系統との接続	10系統以上	接続系統	秋葉線、磐田天竜線、笠井線、浜松市自主運行バスほか		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	45.5				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスパスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用者に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>他系統との接続(本) 50</p> <p>広域利用状況(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	秋葉線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	春野車庫		西鹿島駅		
系統キロ程 (km)	23.4	輸送量 (人/日)	22.0		
平均乗車密度 (人/便)	4.4	運行回数 (回/日)	5.0		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	天竜林業高校、二俣高校、清滝中学校、光が丘中学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	浜松市天竜区役所、遠鉄西鹿島駅			
収支率 (%) (収益/費用)	52.8		乗車人員 (人)	56,981	
他系統との接続	10系統以上	接続系統	北遠本線、磐田天竜線、笠井線、浜松市自主運行バスほか		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	28.1				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスパスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用客に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	秋葉線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	春野車庫	西鹿島駅	厚生会		
系統キロ程 (km)	26.7	輸送量 (人/日)	22.0		
平均乗車密度 (人/便)	4.4	運行回数 (回/日)	5.0		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	天竜林業高校、二俣高校、春野高校、清滝中学校、光が丘中学校			
	病院	天竜病院、厚生会			
	商業施設				
	その他	浜松市天竜区役所、遠鉄西鹿島駅			
収支率 (%) (収益/費用)	51.0		乗車人員 (人)	95,884	
他系統との接続	10系統以上	接続系統	北遠本線、磐田天竜線、笠井線、浜松市自主運行バスほか		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	17.6				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスバスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用者に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	磐田天竜線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	山東	新開	磐田駅		
系統キロ程 (km)	21.7	輸送量 (人/日)	55.3		
平均乗車密度 (人/便)	4.5	運行回数 (回/日)	12.3		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	天竜林業高校、二俣高校、磐田南高校、磐田西小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	磐田市役所、県中遠総合庁舎、浜松市天竜区役所、JR磐田駅、遠鉄西鹿島駅、天竜浜名湖鉄道各駅（豊岡駅・天竜二俣駅）			
収支率 (%) (収益/費用)	55.7		乗車人員 (人)	146,529	
他系統との接続	10系統以上	接続系統	秋葉線、北遠本線、掛塚さなる台線、鮫島線、中ノ町磐田線、磐田市立病院福田線、城之崎線、労災篠ヶ瀬線ほか		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	62.6				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスパスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用客に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>他系統との接続(本) 50</p> <p>広域利用状況(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	磐田天竜線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	山東	ららぽーと	磐田駅		
系統キロ程 (km)	24.7	輸送量 (人/日)	60.2		
平均乗車密度 (人/便)	4.4	運行回数 (回/日)	13.7		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	天竜林業高校、二俣高校、磐田南高校、磐田西小学校			
	病院				
	商業施設	ららぽーと磐田			
	その他	磐田市役所、県中遠総合庁舎、浜松市天竜区役所、JR磐田駅、遠鉄西鹿島駅、天竜浜名湖鉄道各駅（豊岡駅・天竜二俣駅）			
収支率 (%) (収益/費用)	55.2		乗車人員 (人)	196,818	
他系統との接続	10系統以上	接続系統	秋葉線、北遠本線、掛塚さなる台線、鮫島線、中ノ町磐田線、磐田市立病院福田線、城之崎線、労災篠ヶ瀬線ほか		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	33.0				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスパスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用客に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	舘山寺線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	舘山寺温泉	新弁天		
系統キロ程 (km)	27.7	輸送量 (人/日)	23.8		
平均乗車密度 (人/便)	5.3	運行回数 (回/日)	4.5		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松学院大学、浜松北高校、開誠館高校、浜松市立高校、浜松商業高校、附属中学校、冨塚中学校、附属小学校、冨塚小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR各駅（浜松駅・新弁天駅）			
収支率 (%) (収益/費用)	59.9		乗車人員 (人)	76,942	
他系統との接続	10系統以上	接続系統	大平台線、浜名線、大塚ひとみヶ丘線、奥山線、渋川線、引佐線、気賀三ヶ日線ほか浜松駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	9.0				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスパスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用客に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	掛塚さなる台線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	掛塚駒場	横須賀車庫		
系統キロ程 (km)	26.3	輸送量 (人/日)	42.5		
平均乗車密度 (人/便)	5.0	運行回数 (回/日)	8.5		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松修学舎高校、横須賀高校、竜洋西小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	磐田市役所福田支所、掛川市役所大須賀支所、JR浜松駅			
収支率 (%) (収益/費用)	56.8	乗車人員 (人)	122,976		
他系統との接続	10系統以上	接続系統	遠州蛸塚線、磐田天竜線、鮫島線、中ノ町磐田線、磐田市立病院福田線、城之崎線、労災篠ヶ瀬線ほか浜松駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	48.4				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスパスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用客に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	掛塚さなる台線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	掛塚	豊浜郵便局		
系統キロ程 (km)	17.3	輸送量 (人/日)	22.5		
平均乗車密度 (人/便)	4.1	運行回数 (回/日)	5.5		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松修学舎高校、竜洋西小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	磐田市役所福田支所、JR浜松駅			
収支率 (%) (収益/費用)	55.2	乗車人員 (人)	59,703		
他系統との接続	10系統以上	接続系統	遠州蛸塚線、磐田市立病院福田線ほか浜松駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	38.2				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスパスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用者に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	掛塚さなる台線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	掛塚 とつか	豊田町駅		
系統キロ程 (km)	14.6	輸送量 (人/日)	40.1		
平均乗車密度 (人/便)	4.1	運行回数 (回/日)	9.8		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松修学舎高校、竜洋西小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	JR各駅（浜松駅・豊田町駅）			
収支率 (%) (収益/費用)	57.1		乗車人員 (人)	108,527	
他系統との接続	10系統以上	接続系統	遠州蛸塚線ほか浜松駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	40.9				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスパスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用客に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>他系統との接続(本) 50</p> <p>広域利用状況(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	掛塚さなる台線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	掛塚草崎	磐田駅		
系統キロ程 (km)	17.5	輸送量 (人/日)	29.0		
平均乗車密度 (人/便)	5.0	運行回数 (回/日)	5.8		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松修学舎高校、竜洋西小学校、長野小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	JR各駅（浜松駅・磐田駅）			
収支率 (%) (収益/費用)	60.8		乗車人員 (人)	79,902	
他系統との接続	10系統以上	接続系統	遠州蛸塚線、磐田天竜線、鮫島線、中ノ町磐田線、磐田市立病院福田線、城之崎線、労災篠ヶ瀬線ほか浜松駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	32.5				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスパスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用客に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	掛塚さなる台線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	掛塚千手堂	磐田駅		
系統キロ程 (km)	14.8	輸送量 (人/日)	40.9		
平均乗車密度 (人/便)	4.4	運行回数 (回/日)	9.3		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松修学舎高校、竜洋西小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	JR各駅（浜松駅・磐田駅）			
収支率 (%) (収益/費用)	60.9		乗車人員 (人)	104,878	
他系統との接続	10系統以上	接続系統	遠州蛸塚線、磐田天竜線、鮫島線、中ノ町磐田線、磐田市立病院福田線、城之崎線、労災篠ヶ瀬線ほか浜松駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	34.8				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスパスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用客に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>他系統との接続(本) 50</p> <p>広域利用状況(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	内野台線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅		内野台車庫		
系統キロ程 (km)	12.6	輸送量 (人/日)	85.1		
平均乗車密度 (人/便)	5.6	運行回数 (回/日)	15.2		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松北小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅、遠鉄上島駅			
収支率 (%) (収益/費用)	76.6		乗車人員 (人)	157,842	
他系統との接続	10系統以上	接続系統	浜北医大三方原聖隷線、医大じゅんかん線、舘山寺線、大久保線、伊佐見線ほか浜松駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	35.3				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスパスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用客に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>他系統との接続(本) 50</p> <p>広域利用状況(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	内野台線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	内野台車庫	サンストリート浜北		
系統キロ程 (km)	13.8	輸送量 (人/日)	45.3		
平均乗車密度 (人/便)	4.4	運行回数 (回/日)	10.3		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松北小学校			
	病院				
	商業施設	サンストリート浜北			
	その他	浜松市役所、JR浜松駅、遠鉄上島駅			
収支率 (%) (収益/費用)	60.8		乗車人員 (人)	95,357	
他系統との接続	10系統以上	接続系統	浜北医大三方原聖隷線、医大じゅんかん線、舘山寺線、大久保線、伊佐見線ほか浜松駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	36.0				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスパスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用客に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	磐田市立病院福田線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	磐田駅南口		豊浜郵便局		
系統キロ程 (km)	9.4	輸送量 (人/日)	30.0		
平均乗車密度 (人/便)	3.3	運行回数 (回/日)	9.1		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校				
	病院	新都市病院			
	商業施設				
	その他	磐田市役所福田支所、JR磐田駅			
収支率 (%) (収益/費用)	55.2		乗車人員 (人)	57,567	
他系統との接続	10系統以上	接続系統	掛塚さなる台線、鮫島線、中ノ町磐田線、磐田天竜線、城之崎線、労災篠ヶ瀬線ほか		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	72.1				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスパスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用客に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	引佐線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅	引佐高校前	気賀駅前		
系統キロ程 (km)	18.6	輸送量 (人/日)	37.1		
平均乗車密度 (人/便)	5.9	運行回数 (回/日)	6.3		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	静岡大学、浜松北高校、浜松市立高校、開誠館高校、引佐高校、気賀高校			
	病院	聖隷浜松病院			
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅、天竜浜名湖鉄道各駅（金指駅・気賀駅）			
収支率 (%) (収益/費用)	75.4		乗車人員 (人)	96,157	
他系統との接続	10系統以上	接続系統	気賀三ヶ日線、奥山線、浜川線、浜北医大三方原聖隷線、都田線ほか浜松駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	28.1				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスパスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用客に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	萩丘都田線			事業者名	遠州鉄道株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	浜松駅		染地台三丁目		
系統キロ程 (km)	12.3	輸送量 (人/日)	27.5		
平均乗車密度 (人/便)	5.5	運行回数 (回/日)	5.0		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	浜松学芸高校、浜松学院高校			
	病院				
	商業施設				
	その他	浜松市役所、JR浜松駅			
収支率 (%) (収益/費用)	80.3		乗車人員 (人)	66,093	
他系統との接続	10系統以上	接続系統	浜北医大三方原聖隷線、都田線、山の手医大線ほか浜松駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	8.2				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にダイヤ改正を実施。遅れ状況等を確認し、所要時分の見直しを行った。 ・主に小学2年生を対象に、各学校にてバス教室を開催。 ・春夏休みには小学生対象の、高齢者週間には65歳以上対象の割引乗車を実施。 ・4月の繁忙期に合わせ、えんてつカードからナイスパスへのオートチャージキャンペーンを実施。 ・ダイヤ改正にあわせて、バス停周辺のマンションや団地に時刻表等のポスティングを実施。 ・遠鉄百貨店とコラボし、バス利用客に対するインセンティブを発行するキャンペーンを実施。 ・バスの利用促進を図る為、9月にバスの日イベント（はままつバスフェスタ2013）を開催。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタコを導入することにより、個人毎の運転特性を把握し、適切な指導を行う事による燃費改善で、燃料費の抑制を図った。 ・点呼にてエコドライブの徹底を喚起するとともに、営業所毎に燃費の競争も実施した。 ・営業所の営業時間の変更や窓口の閉鎖を検討するとともに、従業員の契約化やパート化を進め間接部門人件費の抑制を図った。 ・60歳以上の乗務員の再雇用制度の普及を進めることにより、直接人件費の抑制を図った。 ・バスターミナル営業所を新設し、浜松駅起点の路線の回送ロスの削減を図った。 ・営業所毎に行っていた備品の発注を本社にて一括管理し、経費削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	五十海大住線			事業者名	しずてつジャストライン株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	清里		焼津市立病院		
系統キロ程 (km)	12.4	輸送量 (人/日)	43.5		
平均乗車密度 (人/便)	3.6	運行回数 (回/日)	12.1		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	静岡福祉大学・藤枝東高校・藤岡小学校・西益津小学校・西益津中学校・大富小学校・大富中学校			
	病院	焼津市立総合病院			
	商業施設	富士屋			
	その他	JR西焼津駅			
収支率 (%) (収益/費用)	65.7		乗車人員 (人)	130,870	
他系統との接続	41系統	接続系統	中部国道線、葉梨線、焼津大島線、大井川焼津線ほか		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	37.6				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR運行時刻に合わせたダイヤ改正の実施 ・ ICカードの推進 ・ ホームページの改修（路線図及び、時刻表の掲載） ・ 大御所パス利用拡大（宅配サービス及び2ヶ月定期券の販売の検討） ・ 路線沿線へのポスティングの実施 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコドライブの徹底 ・ 経費管理体制の実施 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	藤枝吉永線			事業者名	しずてつジャストライン株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	藤枝市立病院	高洲小学校	飯渕		
系統キロ程 (km)	14.7	輸送量 (人/日)	55.0		
平均乗車密度 (人/便)	4.4	運行回数 (回/日)	12.5		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	高洲小学校・大井川中学校・静岡産業大学			
	病院	藤枝市立病院			
	商業施設	大井川庁舎・文化センター			
	その他	JR藤枝駅			
収支率 (%) (収益/費用)	74.9	乗車人員 (人)	148,399		
他系統との接続	25系統	接続系統	藤枝相良線、志太温泉線、駿河台線、ほか藤枝市立病院・藤枝駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	33.6				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR運行時刻に合わせたダイヤ改正の実施 ・ ICカードの推進 ・ ホームページの改修（路線図及び、時刻表の掲載） ・ 大御所パス利用拡大（宅配サービス及び2ヶ月定期券の販売の検討） ・ 路線沿線へのポスティングの実施 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコドライブの徹底 ・ 経費管理体制の実施 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	島田静波線			事業者名	しずてつジャストライン株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	島田駅前	榛原総合病院入口	静波海岸入口		
系統キロ程 (km)	19.7	輸送量 (人/日)	36.4		
平均乗車密度 (人/便)	4.1	運行回数 (回/日)	8.9		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	吉田中学校・吉田高校・島田商業高校			
	病院	榛原総合病院			
	商業施設				
	その他	JR島田駅前・島田市役所・吉田町役場・中央体育館			
収支率 (%) (収益/費用)	62.3		乗車人員 (人)	76,241	
他系統との接続	25系統	接続系統	大津線、金谷島田病院線、藤枝相良線、ほか静波海岸、島田駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	62.1				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR運行時刻に合わせたダイヤ改正の実施 ・ ICカードの推進 ・ ホームページの改修（路線図及び、時刻表の掲載） ・ 大御所パス利用拡大（宅配サービス及び2ヶ月定期券の販売の検討） ・ 路線沿線へのポスティングの実施 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコドライブの徹底 ・ 経費管理体制の実施 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	島田静波線			事業者名	しずてつジャストライン株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	島田市民病院		静波海岸入口		
系統キロ程 (km)	22.0	輸送量 (人/日)	46.4		
平均乗車密度 (人/便)	4.0	運行回数 (回/日)	11.6		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	吉田中学校・吉田高校・島田商業高校・榛原高校			
	病院	榛原総合病医院			
	商業施設				
	その他	JR島田駅・島田市役所・吉田町役場・中央体育館			
収支率 (%) (収益/費用)	58.9	乗車人員 (人)	89,910		
他系統との接続	25系統	接続系統	大津線、金谷島田病院線、藤枝相良線、ほか静波海岸、島田駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	44.6				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR運行時刻に合わせたダイヤ改正の実施 ・ ICカードの推進 ・ ホームページの改修（路線図及び、時刻表の掲載） ・ 大御所パス利用拡大（宅配サービス及び2ヶ月定期券の販売の検討） ・ 路線沿線へのポスティングの実施 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコドライブの徹底 ・ 経費管理体制の実施 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 150 輸送量(人/日) 10 30 平均乗車密度(人/便) 100 300,000 乗車人員(人) 100 収支率(%) 広域利用状況(%) 100 他系統との接続(本) 50 30 運行回数(回/日)</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	藤枝相良線			事業者名	しずてつジャストライン株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	藤枝駅南口	静波海岸入口	相良営業所		
系統キロ程 (km)	24.0	輸送量 (人/日)	63.4		
平均乗車密度 (人/便)	4.2	運行回数 (回/日)	15.1		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	吉田高校・大井川高校・榛原高校・相良高校			
	病院	榛原総合病院			
	商業施設				
	その他	JR藤枝駅・大井川庁舎・吉田町役場			
収支率 (%) (収益/費用)	61.6	乗車人員 (人)	154,229		
他系統との接続	39系統	接続系統	駿河台線、藤枝吉永線、相良浜岡線、相良御前崎線、ほか藤枝駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	67.4				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR運行時刻に合わせたダイヤ改正の実施 ・ ICカードの推進 ・ ホームページの改修（路線図及び、時刻表の掲載） ・ 大御所パス利用拡大（宅配サービス及び2ヶ月定期券の販売の検討） ・ 路線沿線へのポスティングの実施 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコドライブの徹底 ・ 経費管理体制の実施 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	菊川浜岡線			事業者名	しずてつジャストライン株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	菊川駅前	菊川市立総合病院	浜岡営業所		
系統キロ程 (km)	17.5	輸送量 (人/日)	49.8		
平均乗車密度 (人/便)	4.7	運行回数 (回/日)	10.6		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	小笠高校・菊川南陵高校・池新田高校・浜岡中学校			
	病院	菊川市立総合病院			
	商業施設				
	その他	菊川市役所・JR菊川駅			
収支率 (%) (収益/費用)	71.1	乗車人員 (人)	107,667		
他系統との接続	11系統	接続系統			
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	26.7				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・バス教室の開催 ・各地域への時刻表の配布 ・大御所バス宅配サービスの実施 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブの徹底 ・経費管理体制の実施 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 150 輸送量(人/日) 10 30 平均乗車密度(人/便) 100 運行回数(回/日) 300,000 乗車人員(人) 100 収支率(%)</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	掛川大東浜岡線			事業者名	しずてつジャストライン株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	掛川駅前	井崎	浜岡営業所		
系統キロ程 (km)	24.9	輸送量 (人/日)	83.2		
平均乗車密度 (人/便)	4.6	運行回数 (回/日)	18.1		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	東京女子医科大学・第一小学校			
	病院	掛川市立病院			
	商業施設				
	その他	JR掛川駅・大東支所			
収支率 (%) (収益/費用)	67.9		乗車人員 (人)	190,255	
他系統との接続	9系統	接続系統	居尻線、東山線、桜木線、秋葉中遠線、ほか掛川駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	72.3				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR運行時刻に合わせたダイヤ改正の実施 ・ ICカードの推進 ・ ホームページの改修（路線図及び、時刻表の掲載） ・ 大御所パス利用拡大（宅配サービス及び2ヶ月定期券の販売の検討） ・ 路線沿線へのポスティングの実施 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコドライブの徹底 ・ 経費管理体制の実施 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 150 輸送量(人/日) 10 30 広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 他系統との接続(本) 50 30 運行回数(回/日) 乗車人員(人) 300,000 100 収支率(%)</p>				

平成 年度運行分系統別利用実態（公表シート様式2）

系統名	御殿場線			事業者名	富士急行株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	御殿場駅	裾野駅 入口	三島駅		
系統キロ程 (km)	21.8	輸送量 (人/日)	16.4		
平均乗車密度 (人/便)	4.1	運行回数 (回/日)	4.0		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	日大三島（小・中・高）校、三島北（小・中・高）校			
	病院	大橋医院			
	商業施設				
	その他	三菱アルミニウム、岡村製作所、矢崎部品、トヨタ自動車東日本、裾野市役所、裾野市民文化センター			
収支率 (%) (収益/費用)	51.0		乗車人員 (人)	45,775	
他系統との接続	43系統	接続系統	駿河小山線、十里木線、須山線、駿河平線ほか御殿場駅、裾野駅、三島駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	49.2				
増収策	<p>1. 団体へのアプローチ・イベントへの参加</p> <p>①地元自治会などの会合に参加し、乗合バスの現状説明会を実施。併せて周知協力・時刻表の配布を依頼。（「御殿場市婦人会連合会」等）</p> <p>②バナー定期券・学生定期券販促作り作成。御殿場市と連携して全宅配布を実施。（御殿場市内28,000部）</p> <p>③新聞掲載された御殿場市安全協会御殿場支部が開催する「安全教室」に参加。この中でバスの乗り方教室を開催し、参加したご家族・将来のお客様となるお子様にバス利便性等をアピールし利用促進を図った。</p> <p>また、バスの乗り案内を地元学校と連携し行い利用促進を図った。</p> <p>（小学校：7件、幼稚園7件）</p> <p>④裾野市と共同運行する富士急行バスと連携し、全バス停の時刻が記載されている時刻表を作成し、回収板等を通じ各自治会へ配付し利用促進を図った。</p> <p>2. バス利用環境整備、移動円滑化によるバス利用啓発</p> <p>①バス停留所整備・・・記号による案内を改め、平日・土日日で時刻表記を区分。また、デザインも改め（カラー表記）、利用しやすい環境をつくった。</p> <p>②配布用時刻表リニューアル・・・これまでの小冊子形式の時刻表を、使途・需要に合わせた方面別時刻表に改め、且つ方面ごとに詳細な系統略図表記や高速バス乗継案内等を掲載して、利用しやすい環境をつくった。</p> <p>③お問い合わせ対応窓口等の整備・・・通学・通勤のお問い合わせ対応のため、電話窓口の開始時間を1時間早めサービス向上に努めた。</p> <p>④超低床バスの導入・・・超低床バスを中型3台導入した（バリア解消促進事業を活用）。利用しやすい環境を提供することで、地元でバス利用の魅力をを行った。</p>				
費用削減策	<p>1. 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等についても、富士急グループ全体での一括仕入の実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。</p> <p>2. アイドリングストップ強化月間の実施や点呼等による周知徹底、街頭監査による注意喚起により、燃費向上を実現し軽油使用料の削減を図った。</p> <p>3. ドライブレコーダーを乗合車へ13台導入。事故に係る費用と保険料を考慮し、車両保険の付与を取り止め、固定経費の削減を図った。</p> <p>4. 不採算路線の減便等を行い、乗務員人件費の削減を図った。また、25年度運行に向けて当該路線は、回送の効率的な活用を検討した。</p> <p>5. 中型バス3台の更新を行い、燃費効率と修繕費の削減を図った。</p>				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成 年度運行分系統別利用実態（公表シート様式2）

系統名	駿河小山線			事業者名	富士急行株式会社	
路線の状況	起点	経由地	終点			
	御殿場駅	一色	駿河小山駅			
系統キロ程 (km)	11.8	輸送量 (人/日)	50.4			
平均乗車密度 (人/便)	3.6	運行回数 (回/日)	14.0			
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	御殿場（小・中・高）校、				
	病院					
	商業施設	スーパーセルバ、丸善食品				
	その他	郵便局5件、御殿場市役所、小山町役場、コミュニティセンター				
収支率 (%) (収益/費用)	51.0		乗車人員 (人)	45,775		
他系統との接続	43系統	接続系統				
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	49.2					
増収策	<p>1. 団体へのアプローチ・イベントへの参加</p> <p>①小山町制100周年記念イベントに参加。「働く車」のコーナーでパレードに参加。 バス車内での写真展開催、記念100円きっぷの発売、時刻表の配布等を実施。 記念きっぷで静岡新聞に掲載され（パブリシティ獲得）、地元へのアピールを行った。</p> <p>②ツバ定期券・学生定期券販促作り作成。小山町と連携して全宅配布を実施。 （小山町内6,600部、小山町敬老会800部）</p> <p>2. バス利用環境整備、移動円滑化によるバス利用啓発</p> <p>①バス停留所整備・・・記号による案内を改め、平日・土休日で時刻表記を区分。また、デザインも改め（加-表記）、利用しやすい環境をつくった。</p> <p>②配布用時刻表リニューアル・・・これまでの小冊子形式の時刻表を、用途・需要に合わせた方面別時刻表に改め、且つ方面ごとに詳細な系統略図表記や高速バス乗継案内等を掲載して、利用しやすい環境をつくった。</p> <p>③お問い合わせ対応窓口等の整備・・・通学・通勤のお問い合わせ対応のため、電話窓口の開始時間を1時間早めサービス向上に努めた。</p> <p>④低床バスの導入・・・大型ワステップバスを1台導入し、利用環境改善による利用促進を図った。</p>					
費用削減策	<p>1. 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等についても、富士急グループ全体での一括仕入の実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。</p> <p>2. アイドリングストップ強化月間の実施や点呼等による周知徹底、街頭監査による注意喚起により、燃費向上を実現し軽油使用料の削減を図った。</p> <p>3. ドライブレコーダーを乗合車へ13台導入。事故に係る費用と保険料を考慮し、車両保険の付与を取り止め、固定経費の削減を図った。</p> <p>4. 不採算路線の減便等を行い、乗務員人件費の削減を図った。</p> <p>5. 大型ワステップバスを1台導入し、燃費効率の向上と修繕費の削減に努めた。</p>					
利用実態						

平成年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	東海道線(H25.4廃止)			事業者名	富士急静岡バス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	吉原中央駅	吉原駅・旧道	沼津駅		
系統キロ程 (km)	20.2		輸送量 (人/日)	10.2	
平均乗車密度 (人/便)	3.4		運行回数 (回/日)	3.0	
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	原小学校、原中学校、元吉原小学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	JR各駅（沼津駅・片浜駅・原駅・東田子浦駅）			
収支率 (%) (収益/費用)	59.5		乗車人員 (人)	37,043	
他系統との接続	26系統	接続系統	吉原中央駅～茶の木平線、吉原中央駅～富士見台団地線、吉原中央駅～中央病院～富士駅線、吉原中央駅～弥生通り～富士駅線、吉原中央駅～大淵団地～曾比奈線ほか		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	8.0				
増収策	1) 富士・富士宮市内小中学校へ出向き、バス乗り方教室を実施し利用促進を図った。 2) 富士市一日乗車券を富士市にて作成を行い、市内バス事業者にて発売・使用を行いコミュニティバスからの乗り継ぎ券を設定し利用促進に努めた。 3) 小中高等学校に定期券の出張販売に出向き利用人数の増加に努めた。 4) 富士市内路線を一部富士駅始発に変更・振替を行いJR駅からの乗車人員の確保に努めた。				
費用削減策	1) 軽油燃料・オイル・タイヤ等を富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 2) アイドリングストップ強化月間の実施や点呼による待機時エンジンストップ実施による軽油使用削減に徹底し、燃費向上に努めた。 3) ノンステップバスを2台導入した。				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150 平均乗車密度(人/便) 10 運行回数(回/日) 30 収支率(%) 100 乗車人員(人) 300,000 他系統との接続(本) 50 広域利用状況(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	柚野線			事業者名	富士急静岡バス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	富士宮駅	柚野支所	上柚野		
系統キロ程 (km)	10.4	輸送量 (人/日)	15.3		
平均乗車密度 (人/便)	3.2	運行回数 (回/日)	4.8		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	柚野小学校、柚野中学校			
	病院				
	商業施設	農協柚野支店			
	その他				
収支率 (%) (収益/費用)	62.5		乗車人員 (人)	21,108	
他系統との接続	11系統	接続系統	富士宮駅～白糸滝線、富士宮駅～猪の頭線、富士宮駅～休暇村富士線、富士宮駅～足形線、富士宮駅～粟倉・万野団地～富士宮駅線ほか		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	63.0				
増収策	1) 富士・富士宮市内小中学校へ出向き、バス乗り方教室を実施し利用促進を図った。 2) 富士市一日乗車券を富士市にて作成を行い、市内バス事業者にて発売・使用を行いコミュニティバスからの乗り継ぎ券を設定し利用促進に努めた。 3) 小中高等学校に定期券の出張販売に出向き利用人数の増加に努めた。 4) 富士市内路線を一部富士駅始発に変更・振替を行いJR駅からの乗車人員の確保に努めた。				
費用削減策	1) 軽油燃料・オイル・タイヤ等を富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 2) アイドリングストップ強化月間の実施や点呼による待機時エンジンストップ実施による軽油使用削減に徹底し、燃費向上に努めた。 3) ノンステップバスを2台導入した。				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	興津線			事業者名	富士急静岡バス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	富士駅	蒲原病院	寺尾橋		
系統キロ程 (km)	15.3	輸送量 (人/日)	15.7		
平均乗車密度 (人/便)	2.8	運行回数 (回/日)	5.6		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	富士川第一小学校、富士川中学校			
	病院	蒲原病院			
	商業施設				
	その他	JR各駅（富士川駅・蒲原駅・新蒲原駅）			
収支率 (%) (収益/費用)	54.7		乗車人員 (人)	42,964	
他系統との接続	7系統	接続系統	吉原中央駅～弥生通り～富士駅線、吉原中央駅～中央病院～富士駅線、富士駅～富士見台団地線、富士駅～長沢～曾比奈線、富士駅～茶の木平線ほか		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	62.0				
増収策	1) 富士・富士宮市内小中学校へ出向き、バス乗り方教室を実施し利用促進を図った。 2) 富士市一日乗車券を富士市にて作成を行い、市内バス事業者にて発売・使用を行いコミュニティバスからの乗り継ぎ券を設定し利用促進に努めた。 3) 小中高等学校に定期券の出張販売に出向き利用人数の増加に努めた。 4) 富士市内路線を一部富士駅始発に変更・振替を行いJR駅からの乗車人員の確保に努めた。				
費用削減策	1) 軽油燃料・オイル・タイヤ等を富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 2) アイドリングストップ強化月間の実施や点呼による待機時エンジンストップ実施による軽油使用削減に徹底し、燃費向上に努めた。 3) ノンステップバスを2台導入した。				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	曾比奈線			事業者名	富士急静岡バス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	西富士宮駅	赤坂	曾比奈		
系統キロ程 (km)	10.5	輸送量 (人/日)	15.6		
平均乗車密度 (人/便)	3.2	運行回数 (回/日)	4.9		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	大淵第一小学校、富士宮東小学校、大淵中学校、富士宮第一中学校、富士宮東高校、富士特別支援学校			
	病院	新富士病院、富士脳研病院			
	商業施設				
	その他				
収支率 (%) (収益/費用)	63.4		乗車人員 (人)	39,717	
他系統との接続	13系統	接続系統	吉原中央駅～弥生通り～富士駅線、吉原中央駅～中央病院～富士駅線、富士駅～富士見台団地線、富士駅～長沢～曾比奈線、富士駅～茶の木平線ほか		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	32.0				
増収策	1) 富士・富士宮市内小中学校へ出向き、バス乗り方教室を実施し利用促進を図った。 2) 富士市一日乗車券を富士市にて作成を行い、市内バス事業者にて発売・使用を行いコミュニティバスからの乗り継ぎ券を設定し利用促進に努めた。 3) 小中高等学校に定期券の出張販売に出向き利用人数の増加に努めた。 4) 富士市内路線を一部富士駅始発に変更・振替を行いJR駅からの乗車人員の確保に努めた。				
費用削減策	1) 軽油燃料・オイル・タイヤ等を富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 2) アイドリングストップ強化月間の実施や点呼による待機時エンジンストップ実施による軽油使用削減に徹底し、燃費向上に努めた。 3) ノンステップバスを2台導入した。				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	船津線			事業者名	富士急静岡バス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	富士駅	吉原中央駅 市立病院	沼津駅		
系統キロ程 (km)	25.7	輸送量 (人/日)	32.2		
平均乗車密度 (人/便)	4.3	運行回数 (回/日)	7.5		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	富士第一小学校、須津小学校、金岡小学校、須津中学校、富士私立高校			
	病院	富士中央病院、沼津市立病院			
	商業施設				
	その他	富士市役所			
収支率 (%) (収益/費用)	69.9	乗車人員 (人)	148,840		
他系統との接続	35系統	接続系統	吉原中央駅～弥生通り～富士駅線、吉原中央駅～中央病院～富士駅線、富士駅～富士見台団地線、富士駅～長沢～曾比奈線、富士駅～茶の木平線ほか		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	8.0				
増収策	1) 富士・富士宮市内小中学校へ出向き、バス乗り方教室を実施し利用促進を図った。 2) 富士市一日乗車券を富士市にて作成を行い、市内バス事業者にて発売・使用を行いコミュニティバスからの乗り継ぎ券を設定し利用促進に努めた。 3) 小中高等学校に定期券の出張販売に出向き利用人数の増加に努めた。 4) 富士市内路線を一部富士駅始発に変更・振替を行いJR駅からの乗車人員の確保に努めた。				
費用削減策	1) 軽油燃料・オイル・タイヤ等を富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 2) アイドリングストップ強化月間の実施や点呼による待機時エンジンストップ実施による軽油使用削減に徹底し、燃費向上に努めた。 3) ノンステップバスを2台導入した。				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

系統名	大淵線			事業者名	富士急静岡バス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	吉原中央駅	中野	富士宮駅		
系統キロ程 (km)	13.8	輸送量 (人/日)	15.3		
平均乗車密度 (人/便)	5.1	運行回数 (回/日)	3.0		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	大淵第一小学校、富士宮東小学校、大淵中学校、富士宮第一中学校、富士宮東高校、富士特別支援学校			
	病院	新富士病院、大富士病院、富士脳研病院			
	商業施設				
	その他				
収支率 (%) (収益/費用)	91.5		乗車人員 (人)	37,987	
他系統との接続	18系統	接続系統	吉原中央駅～弥生通り～富士駅線、吉原中央駅～中央病院～富士駅線、富士駅～富士見台団地線、富士駅～長沢～曾比奈線、富士駅～茶の木平線ほか		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	22.0				
増収策	1) 富士・富士宮市内小中学校へ出向き、バス乗り方教室を実施し利用促進を図った。 2) 富士市一日乗車券を富士市にて作成を行い、市内バス事業者にて発売・使用を行いコミュニティバスからの乗り継ぎ券を設定し利用促進に努めた。 3) 小中高等学校に定期券の出張販売に出向き利用人数の増加に努めた。 4) 富士市内路線を一部富士駅始発に変更・振替を行いJR駅からの乗車人員の確保に努めた。				
費用削減策	1) 軽油燃料・オイル・タイヤ等を富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 2) アイドリングストップ強化月間の実施や点呼による待機時エンジンストップ実施による軽油使用削減に徹底し、燃費向上に努めた。 3) ノンステップバスを2台導入した。				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	駿河平線			事業者名	富士急シティバス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	三島駅	下土狩駅 がんセンター	駿河平		
系統キロ程 (km)	10.6	輸送量 (人/日)	30.5		
平均乗車密度 (人/便)	4.3	運行回数 (回/日)	7.1		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	長泉北小学校			
	病院	静岡県立がんセンター			
	商業施設				
	その他	クレマチスの丘、長泉町役場、長泉町福祉会館、JR各駅（三島駅・下土狩駅）、伊豆箱根鉄道広小路駅			
収支率 (%) (収益/費用)	83.0		乗車人員 (人)	72,223	
他系統との接続	25系統	接続系統	御長屋線ほか下土狩駅、三島駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	40.0				
増収策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 長泉町役場と連携し、駿河平自治会と意見交換を実施し、地域での利用促進を図った。又、静岡県立がんセンターやベックマン・コールター（大手事業所）と通勤、お見舞い客等の要望を打ち合わせし時刻に関する調整を実施した。 2) 新規道路の開設に伴う大型量販店、医療機関の進出や居住人口の増加により、三島市、長泉町、裾野市内を循環する新規路線を開設した。 3) 時刻表を冊子形式からチラシ形式へ変更しお客様が必要な部分のみ携帯できる形に変更した。又一部路線について全バス停の時刻が記載されている時刻表を作成し、回覧板等を通じ各自治会へ配付し利用促進を図った。 4) 静岡運輸支局の「交通バリアフリー教室」への参加及び幼稚園等における「バス乗り方教室」を実施し利用促進を図った。 5) ノンステップバスを2台導入した。 				
費用削減策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等についても、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 2) アイドリングストップ強化月間の実施や点呼等による周知徹底、街頭監査による注意喚起により、燃費向上を実現し軽油使用料の削減を図った。 3) ドライブレコーダーを乗合車へ25台導入。事故に係る費用と保険料を考慮し、車両保険の付与を取り止め、固定経費の削減を図った。 4) 不採算路線の廃止（協議成立）や減便等による効率的な仕業による乗務員人件費の削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 10.6</p> <p>輸送量(人/日) 30.5</p> <p>平均乗車密度(人/便) 4.3</p> <p>運行回数(回/日) 7.1</p> <p>乗車人員(人) 72,223</p> <p>収支率(%) 83.0</p> <p>広域利用状況(%) 40.0</p> <p>他系統との接続(本) 25</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	須山線			事業者名	富士急シティバス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	三島駅	御宿 下和田上	須山		
系統キロ程 (km)	19.8	輸送量 (人/日)	15.1		
平均乗車密度 (人/便)	4.1	運行回数 (回/日)	3.7		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	日大三島高校、三島北高校、三島北小・中学校、富岡第一小学校、富岡中学校、須山小・中学校			
	病院	大橋医院			
	商業施設				
	その他	裾野市役所、裾野市役所富岡・須山支所、JR各駅（三島駅・裾野駅）			
収支率 (%) (収益/費用)	66.0		乗車人員 (人)	44,328	
他系統との接続	36系統	接続系統	御殿場線、駿河平線、御長屋線ほか裾野駅、三島駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	40.0				
増収策	<ol style="list-style-type: none"> 裾野市、三島市と連携し、須山、十里木、見晴台の組長と意見交換を実施し、地域での利用促進を図った。又、全バス停の時刻が記載されている時刻表を作成し、回覧板等を通じ各自治会へ配付し利用促進を図った。 新規道路の開設に伴う大型量販店、医療機関の進出や居住人口の増加により、三島市、長泉町、裾野市内を循環する新規路線を開設した。 時刻表を冊子形式からチラシ形式へ変更しお客様が必要な部分のみ携帯できる形に変更した。 静岡運輸支局の「交通バリアフリー教室」への参加及び幼稚園等における「バス乗り方教室」を実施し利用促進を図った。 ノンステップバスを2台導入した。 				
費用削減策	<ol style="list-style-type: none"> 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等についても、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 アイドリングストップ強化月間の実施や点呼等による周知徹底、街頭監査による注意喚起により、燃費向上を実現し軽油使用料の削減を図った。 ドライブレコーダーを乗合車へ25台導入。事故に係る費用と保険料を考慮し、車両保険の付与を取り止め、固定経費の削減を図った。 不採算路線の廃止（協議成立）や減便等による効率的な仕業による乗務員人件費の削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>他系統との接続(本) 50</p> <p>広域利用状況(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	須山線			事業者名	富士急シティバス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	三島駅	今里集会場 下和田上	須山		
系統キロ程 (km)	20.2	輸送量 (人/日)	15.5		
平均乗車密度 (人/便)	5.0	運行回数 (回/日)	3.1		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	日大三島高校、三島北高校、三島北小・中学校、富岡第一小学校、富岡中学校、須山小・中学校			
	病院	大橋医院			
	商業施設				
	その他	裾野市役所、裾野市役所富岡・須山支所、JR各駅（三島駅・裾野駅）			
収支率 (%) (収益/費用)	76.0	乗車人員 (人)	46,744		
他系統との接続	36系統	接続系統	御殿場線、駿河平線、御長屋線ほか裾野駅、三島駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	37.0				
増収策	<ol style="list-style-type: none"> 裾野市、三島市と連携し、須山、十里木、見晴台の組長と意見交換を実施し、地域での利用促進を図った。又、全バス停の時刻が記載されている時刻表を作成し、回覧板等を通じ各自治会へ配付し利用促進を図った。 新規道路の開設に伴う大型量販店、医療機関の進出や居住人口の増加により、三島市、長泉町、裾野市内を循環する新規路線を開設した。 時刻表を冊子形式からチラシ形式へ変更しお客様が必要な部分のみ携帯できる形に変更した。 静岡運輸支局の「交通バリアフリー教室」への参加及び幼稚園等における「バス乗り方教室」を実施し利用促進を図った。 ノンステップバスを2台導入した。 				
費用削減策	<ol style="list-style-type: none"> 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等についても、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 アイドリングストップ強化月間の実施や点呼等による周知徹底、街頭監査による注意喚起により、燃費向上を実現し軽油使用料の削減を図った。 ドライブレコーダーを乗合車へ25台導入。事故に係る費用と保険料を考慮し、車両保険の付与を取り止め、固定経費の削減を図った。 不採算路線の廃止（協議成立）や減便等による効率的な仕業による乗務員人件費の削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>他系統との接続(本) 50</p> <p>広域利用状況(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	須山線			事業者名	富士急シティバス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	三島駅	御宿	下和田上		
系統キロ程 (km)	15.4	輸送量 (人/日)	15.1		
平均乗車密度 (人/便)	4.2	運行回数 (回/日)	3.6		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	日大三島高校、三島北高校、三島北小・中学校、富岡第一小学校、富岡中学校			
	病院	大橋医院			
	商業施設				
	その他	裾野市役所、裾野市役所富岡・須山支所、JR各駅（三島駅・裾野駅）			
収支率 (%) (収益/費用)	70.0		乗車人員 (人)	49,177	
他系統との接続	36系統	接続系統	御殿場線、駿河平線、御長屋線ほか裾野駅、三島駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	39.0				
増収策	1) 裾野市、三島市と連携し、須山、十里木、見晴台の組長と意見交換を実施し、地域での利用促進を図った。又、全バス停の時刻が記載されている時刻表を作成し、回覧板等を通じ各自治会へ配付し利用促進を図った。 2) 新規道路の開設に伴う大型量販店、医療機関の進出や居住人口の増加により、三島市、長泉町、裾野市内を循環する新規路線を開設した。 3) 時刻表を冊子形式からチラシ形式へ変更しお客様が必要な部分のみ携帯できる形に変更した。 4) 静岡運輸支局の「交通バリアフリー教室」への参加及び幼稚園等における「バス乗り方教室」を実施し利用促進を図った。 5) ノンステップバスを2台導入した。				
費用削減策	1) 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等についても、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 2) アイドリングストップ強化月間の実施や点呼等による周知徹底、街頭監査による注意喚起により、燃費向上を実現し軽油使用料の削減を図った。 3) ドライブレコーダーを乗合車へ25台導入。事故に係る費用と保険料を考慮し、車両保険の付与を取り止め、固定経費の削減を図った。 4) 不採算路線の廃止（協議成立）や減便等による効率的な仕業による乗務員人件費の削減を図った。				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	御長屋線			事業者名	富士急シティバス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	三島駅	下土狩駅 がんセンター	桃沢郷		
系統キロ程 (km)	14.4	輸送量 (人/日)	18.3		
平均乗車密度 (人/便)	3.4	運行回数 (回/日)	5.4		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	長泉北小学校			
	病院	静岡県立がんセンター			
	商業施設				
	その他	クレマチスの丘、長泉町役場、長泉町福祉会館、JR各駅（三島駅・下土狩駅）、伊豆箱根鉄道広小路駅			
収支率 (%) (収益/費用)	63.0	乗車人員 (人)	47,252		
他系統との接続	36系統	接続系統	駿河平線ほか下土狩駅、三島駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	55.0				
増収策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 長泉町役場と連携し、元長窪自治会や小中学生のいる家庭の主婦等と意見交換を実施し、地域での利用促進を図った。又、静岡県立がんセンターやベックマン・コールター（大手事業所）と通勤、お見舞い客等の要望を打ち合わせし時刻に関する調整を実施した。 2) 新規道路の開設に伴う大型量販店、医療機関の進出や居住人口の増加により、三島市、長泉町、裾野市内を循環する新規路線を開設した。 3) 時刻表を冊子形式からチラシ形式へ変更しお客様が必要な部分のみ携帯できる形に変更した。又一部路線について全バス停の時刻が記載されている時刻表を作成し、回覧板等を通じ各自治会へ配付し利用促進を図った。 4) 静岡運輸支局の「交通バリアフリー教室」への参加及び幼稚園等における「バス乗り方教室」を実施し利用促進を図った。 5) ノンステップバスを2台導入した。 				
費用削減策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等についても、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 2) アイドリングストップ強化月間の実施や点呼等による周知徹底、街頭監査による注意喚起により、燃費向上を実現し軽油使用料の削減を図った。 3) ドライブレコーダーを乗合車へ25台導入。事故に係る費用と保険料を考慮し、車両保険の付与を取り止め、固定経費の削減を図った。 4) 不採算路線の廃止（協議成立）や減便等による効率的な仕業による乗務員人件費の削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	御殿場線			事業者名	富士急シティバス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	三島駅	岩波	御殿場駅		
系統キロ程 (km)	22.0	輸送量 (人/日)	16.7		
平均乗車密度 (人/便)	3.9	運行回数 (回/日)	4.3		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	日大三島高校、三島北高校、三島北小・中学校			
	病院	大橋医院			
	商業施設				
	その他	裾野市役所、裾野市民文化センター、JR各駅（三島駅・裾野駅・岩波駅・御殿場駅）			
収支率 (%) (収益/費用)	61.0		乗車人員 (人)	47,252	
他系統との接続	35系統	接続系統	須山線ほか御殿場駅、岩波駅、裾野駅、三島駅乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	55.0				
増収策	<ol style="list-style-type: none"> 裾野市と連携し、全バス停の時刻が記載されている時刻表を作成し、回覧板等を通じ各自治会へ配付し利用促進を図った。 新規道路の開設に伴う大型量販店、医療機関の進出や居住人口の増加により、三島市、長泉町、裾野市内を循環する新規路線を開設した。 時刻表を冊子形式からチラシ形式へ変更しお客様が必要な部分のみ携帯できる形に変更した。 静岡運輸支局の「交通バリアフリー教室」への参加及び幼稚園等における「バス乗り方教室」を実施し利用促進を図った。 ノンステップバスを2台導入した。 				
費用削減策	<ol style="list-style-type: none"> 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等についても、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 アイドリングストップ強化月間の実施や点呼等による周知徹底、街頭監査による注意喚起により、燃費向上を実現し軽油使用料の削減を図った。 ドライブレコーダーを乗合車へ25台導入。事故に係る費用と保険料を考慮し、車両保険の付与を取り止め、固定経費の削減を図った。 不採算路線の廃止（協議成立）や減便等による効率的な仕業による乗務員人件費の削減を図った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>他系統との接続(本) 50</p> <p>広域利用状況(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	原線			事業者名	富士急シティバス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	沼津駅	旧道	東田子浦駅		
系統キロ程 (km)	12.8	輸送量 (人/日)	15.3		
平均乗車密度 (人/便)	3.2	運行回数 (回/日)	4.8		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	沼津西高校、原小学校			
	病院	保健センター			
	商業施設	西友松長店、カインズホーム沼津店			
	その他	JR各駅（沼津駅・片浜駅・原駅・東田子浦駅）			
収支率 (%) (収益/費用)	58.0		乗車人員 (人)	44,784	
他系統との接続	53系統	接続系統	JR各駅（沼津駅・片浜駅・原駅・東田子浦駅）乗入系統		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	2.0				
増収策	1) 沼津市と連携し、地域の自治会と意見交換し、現状への理解及び利用促進を図った。 2) 新規道路の開設に伴う大型量販店、医療機関の進出や居住人口の増加により、三島市、長泉町、裾野市内を循環する新規路線を開設した。 3) 時刻表を冊子形式からチラシ形式へ変更しお客様が必要な部分のみ携帯できる形に変更した。 4) 静岡運輸支局の「交通バリアフリー教室」への参加及び幼稚園等における「バス乗り方教室」を実施し利用促進を図った。 5) ノンステップバスを2台導入した。				
費用削減策	1) 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等についても、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 2) アイドリングストップ強化月間の実施や点呼等による周知徹底、街頭監査による注意喚起により、燃費向上を実現し軽油使用料の削減を図った。 3) ドライブレコーダーを乗合車へ25台導入。事故に係る費用と保険料を考慮し、車両保険の付与を取り止め、固定経費の削減を図った。 4) 不採算路線の廃止（協議成立）や減便等による効率的な仕業による乗務員人件費の削減を図った。				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成24年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	中伊豆線			事業者名	伊豆箱根バス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	修善寺駅	地藏堂 貴僧坊	筏場		
系統キロ程 (km)	12.7	輸送量 (人/日)	40.32		
平均乗車密度 (人/便)	2.8	運行回数 (回/日)	14.4		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	中伊豆小学校、中伊豆中学校、修善寺南小学校、修善寺中学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	伊豆市中伊豆支所、修善寺郵便局			
収支率 (%) (収益/費用)	54.0		乗車人員 (人)	106,904	
他系統との接続	1系統	接続系統	中伊豆線		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	48.0				
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中伊豆地区の小中学校統廃合に伴う時刻改正実施(H23.4) ・ 伊豆市地区のシルバー定期券導入実施(H24.4) ・ 幼稚園児への乗り方教室を実施。 				
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給与体系の見直し。 ・ 燃料の仕入れ方法を見直し(入札制)、仕入れ単価を操作。 ・ エコドライブの推進。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>他系統との接続(本) 50 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				